

## ウェブサイト制作者が模索する サイエンス・コミュニケーション

大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室 特任講師 岩崎 琢哉

2011.1.14 (金) 18:00

於：京都大学 吉田東館

1

## ●サイエンスコミュニケーションとは

2

- 科学について、  
科学者ではない**市民と**  
**科学者が**  
**対話すること**

3

- 科学技術分野における  
アウトリーチ とは

4

- 研究者や研究機関が研究成果を国民に周知する活動をさす。政府から研究費の補助を受けた場合、その義務としてアウトリーチ活動が課される場合もある。国際会議や国際シンポジウム等を開いて、広く一般に成果を発表する場合や、**研究論文を学会誌などに投稿して世に知らしめる場合**なども、アウトリーチ活動であるといえる。また、同分野の専門家以外を対象とした、一般向けの**成果発表会、普及講演、研究施設の一般公開**などもアウトリーチ活動に含まれる。近年では、双方向性が重視されており、研究者からの一方的発信ではなく、一般社会からのフィードバックが必須とされる傾向にある。

(ウィキペディアより)

5

## 私の立場

- 大阪大学の研究広報に関わっている。
- 研究広報の一環として行われる**アウトリーチ活動に際して、「サイエンスカフェ」の体裁をとるものを企画し、その運営に携わっている。**
- **アウトリーチ活動ではあるが、サイエンスカフェの体裁を取るので、「科学者と一般市民の会話」が発生する可能性がある。**
- サイエンスカフェの際に得られた素材をWeb広報に転用している。この際、**読者とのコミュニケーションが可能であれば、成立させたいと考えている。**

6

本日のキーワード ①

# 大阪大学 大型教育研究プロジェクト 支援室

長いよ...

7



8

本日のキーワード ②

# CoSTEP

9



10

本日のキーワード ③

# CAI (スタディシリーズ)

11

スタディシリーズとは

- 筑波大学の（故）中山和彦名誉教授らが開発した、Computer Assisted Instructionの開発と実行の統合環境。

12

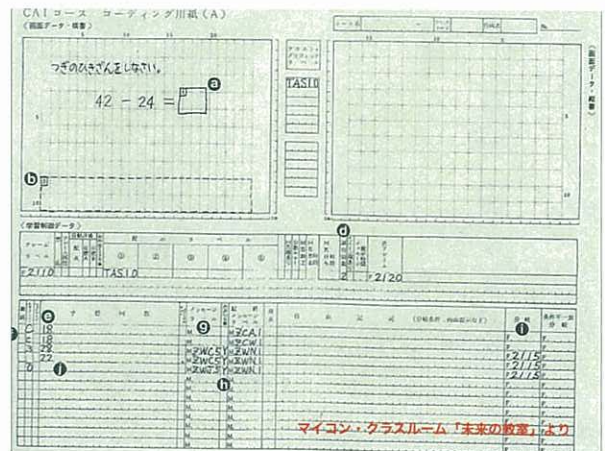


中山和彦先生 1995年頃 (撮影：岩崎)

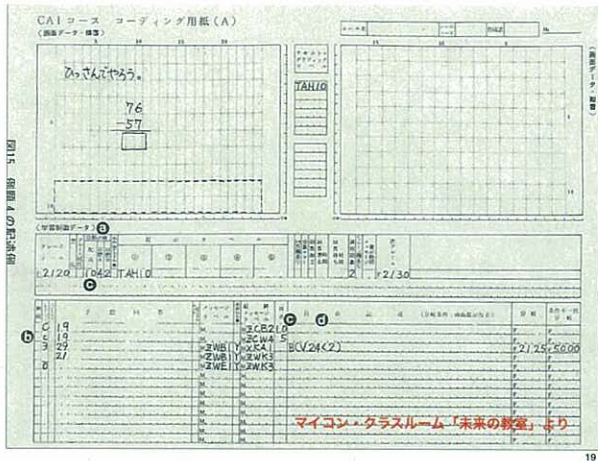
# 現行商品です



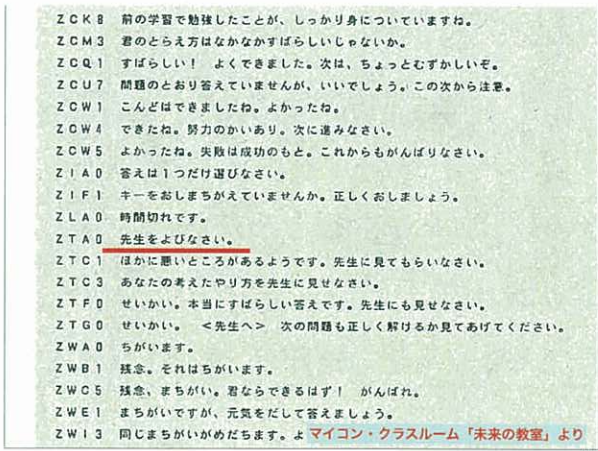
## 分岐と治療 どのように実装されるか







無人の教授ソフトではない。  
40人学級で、いかにして個別対応の機会を増やすか。  
先生をフル稼働させるか。  
このことをassistする仕組み。



しょっちゅう  
呼ばれます

「誤答」をキャッチして指導ルーチン呼び出す構造なので、コースウェアの作り手は「誤答を知り尽くした現場の先生」であった。プロの製造業者の存在意義はまた別のところにあった。

(スタディシリーズは) 誤答パターンの集積と、対応する治療の洗練を、**集合知で推進する**プラットフォームを志向した。

筑波大学を本拠とし、北海道から九州までをカバーする**人のネットワーク**があった。  
シャープもそうした活動を、強力にバックアップしていた。

過去形なのは、現況を知らないからです。他意はありません。

25

でも、  
誤答パターンが探られ尽くし、  
治療が洗練の極みに達したと  
いう話を、まだ聞かない。

26

誤答を**失敗**に、  
治療をより**洗練された対応**に  
置き換えて考える。  
民間企業の営利活動でも、  
失敗が有意義に蓄積され、洗練  
につながるとは限らない。

27

でも多分、  
制限時間内に失敗を洗練  
につなげられないと、  
活動の継続は難しい。  
いつか倒れる。

28

とりあえずいますぐに、  
サイエンスカフェなどの  
実践と**セット**で、  
**淡々と**、  
**みんな**で、  
取り組める事はなんだろう？

29

30

まず**結果の共有**をしませんか。  
共有のための（軽い）プラットフォーム開発を。

# 交換しましょう



- 個人情報を除いたアンケート結果
- サイエンスカフェのオペレーションマニュアル

# おしまい

# お詫び

タイトルに「ウェブサイト制作者が検索する」とあるのですが、そこに到達する前に、話が終わってしまいました。申し訳ありません。言おうとした事はつまりこういうことです――。

なにがしかのデータをみんなでドンドン肥大させて、何か生み出そうという企みは、ネットワーク作りの話であって、（今日みたいな）人の繋がりに行き着きます。その上で、Web には、インターネットには、使えるリソースがあるような気がします。ひょっとしたら、一から自分で作らないとダメかもしれません。

私は、生涯をこの道に捧げた研究者ではありません。時計を気にしながら、本業と絡めつつ、限られた資源を何に投入すべきか検索しています。この辺の話は、いずれまたどこかで。（岩崎）

このプレゼンデータは、当日用意したデータから未使用分を取り除き、  
口頭での説明を一部加えたバージョンです。

(2011年1月26日 岩崎)